未来へつないでいくお米作り

明野五葉学園 九年 中島 楓亜

「お米をたくさん食べて大きくなれ！」これは、私が祖父からよく言われていた言葉です。私は離乳食の時から、祖父が作ってくれたおいしいお米を食べて育ちました。休みの時、祖父の家に戻るといつも炊きたてのご飯があり、家族みんなと一緒に食卓を囲んで食事をするのが私の楽しみでした。

毎年、ゴールデンウィークには祖父の家に帰って、田植えのお手伝いをしていました。私は苗を田んぼまで運んだり、田植えが終わった苗箱を洗ったりしていました。暑い中で田植えや片付けをすることは大変なことでしたが、終わったときにはとてもやりがいを感じました。そのお手伝いが私にとって、祖父と一緒にお米を作っているような感じかしてとても楽しい時間になっていました。しかし、私が小学生の頃に祖父が体調を崩してからは祖父の家では田植えをやめてしまいました。

ゴールデンウィーク中の私の楽しみが一つなくなっ
てしまい、少し寂しい気持ちになりました。祖父と、
元気になっただら、また一緒に田植えをしようとし
ていましたが、願いは叶わず、祖父は亡くなっ
てしまいました。お米作りは祖父がほとんどやっ
ていて、家族のみんなは田植え、稲刈りを手伝
う程度だったので、今後、田んぼをどうしてい
くか相談していました。家族みんなで相談して
いるのを聞いてみると、お米作りにはたくさん
の工程があることを知りました。

お米ができるまでの工程は、大きく分けて
「土作り、種まき、苗の準備、田植え、管理
と除草、追肥と水抜き、稲刈り、乾燥」だそ
うです。私が手伝っていたのは田植えのみで、
ほんの一部の工程だけでした。種まきをした
ら、苗ができるまでの管理はもちろん、田植
えをしたら毎日、田んぼの水の量を確認しに
行ったり、雑草などを抜いたりするという大
変な工程があることに驚きました。私が知ら

ない所で祖父が毎日たくさん頑張ってくれて
いたことを知り、おいしいお米を作ってくれ
ていた祖父に感謝の気持ちでいっぱいになり
ました。家族で話し合った結果、今からお米
作りについて勉強することは大変で、仕事を
しながらお米作りを全て行うことは難しいと
いう結論になり、市役所を通して、祖父の家
の近所の方に田んぼをお願いすることにしま
した。田んぼを引き受けくださって近所の
方は、祖父の田んぼ以外にも、耕作者のいな
いたくさんの田んぼでお米作りをししてくれて
いるそうです。

近年、日本では高齢化がどんどん進んでい
ます。そうになると、祖父の田んぼのように耕
作者がいなくなったり、農家の跡継
ぎがいなくなったりして、お米が作
られなくなってしまう。た田んぼが増加しこし
まう恐れがあります。これから先、お米作り
の工程を知らない若い人たちが増え、お米が
食べられなくなってしまうのは、とても残念

で悲しいことです。私が住んでいる地域では、田植や稲刈りの体験をしている小学校があります。家に田んぼがない人も多いと思うので、小学生たちにとって良い経験になっていっていると思います。この体験を通して、お米作りの大変さや楽しさ、そして、やりがいなどを実際に自分自身の体で感じ、お米作りに少しでも興味や関心をもってもらえたら、とても嬉しいです。

私は、祖父がお米作りをやめてからは、親戚の家で田植えのお手伝いをさせてもらっています。田植えだけでなく、種まきや稲刈りなど、新しいことにも挑戦しています。今、私にはお手伝いをするこゝしかできないけれど、みんなに美味しいお米が届くように、お米作りのサポートを頑張りたいと思います。これからも、美味しいお米を作って届けられている方々に感謝することを忘れず、食事の時の挨拶、いただきます、ごちそうさまでしたを必ず毎日言おうと思います。